

試験研究及び研修

5 1 平成20年度試験研究実績表

部門	新 継	研 究 課 題	補助区分	研究期間	概 要
育 林 ・ 育 種	継	バイオテク利用による効率的苗木生産技術の確立	県単	11～20	増殖困難な樹種を中心にバイオテク技術を利用し、効率的苗木生産技術システムを開発する。
	継	造成された複層林の管理方法及び帯状複層林造成方法の開発	県単	16～20	造成後10～15年を経過した複層林の実態調査を実施し、その結果に基づき造成後の複層林の管理方法および複層林造成方法の修正版を作成するとともに、公益的機能と木材生産機能の調和を図る複層林として注目されている帯状複層林の造成方法を開発する。
	継	都市緑化に適した品種の開発	県単	16～25	都市部の屋上、公園、ガーデニング等の緑化において、収益に結びつく品目の選抜・育種を行い、地域特性品種を開発する。
	継	長伐期施業推進に対応した育林技術の開発	県単	18～22	ヒノキ、スギを対象とし、長伐期施業推進のために必要な林分調査、生態生理的な測定を行い、90年～100年生を越える森林を対象とした林分収穫予想表、長伐期林の保育管理指針の作成を試みる。
	継	落葉広葉樹育成のための光管理方法の研究	県単	19～23	低質針葉樹人工林へ落葉広葉樹を導入した混交林、落葉広葉樹の樹下植栽による里山林などの造成管理のための光環境管理指針を作成する。
森 林 保 護	継	ヤノナミガタチビタマムシの生態と対策に関する研究	県単	18～20	ヤノナミガタチビタマムシによる被害が森林公園を中心としたケヤキ林に拡大している。本害虫の集団越冬期における防除技術を、天敵利用を含め検討し、被害軽減方法の確立を目指す。
	継	カツラマルカイガラムシ被害軽減法と被害材の有効利用に関する研究	県単	19～21	県内で急速に拡大しつつあるカツラマルカイガラムシ被害について、その進行から被害回復プロセスを明らかとし、被害の全容を把握する。そこから今後の被害予測及び被害対策と被害材の活用法を検討する。

部門	新 継	研 究 課 題	補助区分	研究期間	概 要
環境保全	継	枯れ木の生態学－多様な林分構造を考慮した森林管理手法の検討－	県単	16～20	「生態系としての森林の適切な管理の推進」を達成するために、枯死木や林地残材等を含んだ林分構造の新たな側面を考慮して、多様な林分構造を創出または残存する森林管理手法の検討を行う。
	継	緑化施工地の実態調査と効果的な施工指針の開発	県単	16～20	過去に施工されてきた緑化施工地の実態調査を行い、緑化施工地の生態的位置づけを明らかにすることにより、今後の管理指針を明らかにする。また、効果的な施工方法を検討する。
	継	生態的プロセスを重視した針葉樹人工林の林種転換	県単	18～22	山梨県県有林第7次計画では「地位下」と判定された林分の多くについて、経済林から公益林へと作業団を変更することが想定されている。そこで地域の生態的プロセスに着目した効果的な林種転換方法を明らかにする。
	継	野生獣害を軽減する森林施業方法の実証試験	県単	18～22	中山間地の森林の管理放棄が野生動物の行動に影響を及ぼしている可能性が指摘されているが、その検証はほとんどされていない。下刈り及び除間伐がそれに及ぼす影響に焦点を絞り、野生動物問題解決への一端を担う。
	新	堅果の豊凶がツキノワグマの出没に及ぼす影響	県単	20～22	ツキノワグマの出没が懸念される県内数カ所をモデル地域として、種子トラップによる堅果の豊凶調査と、ツキノワグマ出没データを照合して関係性を明らかにする。
	新	野生獣害に対する森林被害防除事例集の作成	県単	20	これまで行われてきた防除策の情報集積を図り、成功例・失敗例、長所・短所をまとめることにより、今後の有効な防除策を検討する。
特用林産	継	新たな地域特産品として活用できるきのこ栽培マニュアル作成	県単	17～21	県内に多数自生する野生きのこ資源を有効に活用するために、それらの中から有望と考えられる種類を選定し、栽培マニュアルを作成する。18年度はブナハリタケの栽培マニュアル作成に着手した。また、有望菌株の収集・調査を進めている。
	新	炭化物の土壌改良評価試験	県単	20～22	木炭、竹炭、セラミック炭を用いて試験地で農産物の栽培を行い、生産物の評価及び土壌成分の評価を行う。また、ワグネルポット内でも同様の試験を行う。これらの試験結果を用い、土壌改良材との価格の比較など採算性等についても検討を行い、炭化物の評価を行う。

部門	新 継	研 究 課 題	補助区分	研究期間	概 要
木材加工	継	集成材工場における生産効率化のための品質管理技術の開発	県単	19～21	集成材工場の生産効率に影響を及ぼす品質管理上の課題を解決することを目的に、入荷ラミナの強度分布特性の調査、製品・ラミナの接着特性評価による最適な接着条件及び剥離等の発生機構の解明を行う。
機械化技術	継	簡易作業路作設手法の確立	県単	19～21	従来型の実態調査から、経年変化による破損や耐久性、コスト、各種施業との関係などを調査し実践的な簡易作業路の工程から作設全般に関する手引き書を作成する。
植物園	継	山菜類の栽培技術に関する研究	県単	14～20	これまでの研究で増殖可能な知見が得られたモミジガサ、ウワバミソウ、サルナシ、ウコギ等に関して、収益性、低コスト化に対する研究を行う。
	継	特用樹（果実利用・樹液採取）の増殖と栽培法の開発	県単	16～20	八ヶ岳薬用植物園で栽培されている特用樹の中から、樹液採取用樹種としてサトウカエデ、果実用樹種としてフサスグリ、およびラズベリーの増殖法の開発・栽培特性・収穫時期・生産性などについて検討し、栽培マニュアルの作成、商品化および経営指標について検討を行う。
受託	継	富士スバルライン沿線緑化試験	公委	S45～	富士山という特別な地域の中を通る道路である富士スバルラインの沿線の植生の遷移、修景緑化の方法、更新の状況等を調査する。 （山梨県道路公社より受託）
	継	県有林モニタリング事業	県委	19～	全県下に調査地6地点を設け、昆虫多様性、菌類多様性、植物多様性、水質状況、炭素固定量の可能な項目について、伐採が周辺林分に及ぼす影響を中心にモニタリングする。 （県有林課より受託）
	継	高標高地域における松くい虫棲息可能調査	県委	19～21	従来の松くい虫分布調査結果からは生息しないとされていた高標高地域において、松くい虫被害木が発見されるようになったことから、松くい虫の生息可能な標高を再度調査し、山梨県における松くい虫の生息可能区域を明らかにする。（森林整備課より受託）

5 2 平成20年度森林総合研究所及び部内研修実績表

(1) 専門研修(対象者:県及び市町村林業技術者、森林組合職員ほか)

研修の種類	日数	参加者数	内 容
専門研修	38	512	造林、森林経営、木材加工、林業機械、 特用林産、森林土木等
計	38	512	

(2) 基礎研修(新規参入支援 対象者:県内に在住する建設業等の事業主及びその従業員等)

研修の種類	日数	参加者数	内 容
講演	4	36	「山梨の森林・林業」 「林業が抱える問題点等」
視察・見学	2	14	「県森林組合連合会木材市場の見学」 「簡易作業路作設現場の視察等」
計	6	50	

(3) 指定研修(対象者:林業従事者等)

研修の種類	日数	参加者数	内 容
小型車両系建設機械	2	5	小型車両系建設機械(3t未満)特別教育
林業架線	15	6	林業架線作業主任者免許規程に係わる講習
はい作業	2	8	はい作業主任者技能講習
計	19	19	

(4) 森の教室(対象者:一般県民)

研修の種類	日数	参加者数	内 容
体験学習	14	330	植物観察、昆虫教室、間伐・シイタケ植菌体験・押し花教室、里山観察会
木工・クラフト教室	9	334	プランター、マガジンラック、竹細工等の製作
計	23	664	

(5) 植物園研修(対象者:農林家、一般県民)

研修の種類	日数	参加者数	内 容
山の幸教室	12	239	山菜教室、健康茶作り、ハーブ教室、薬草料理教室、クラフト製作、キノコ採取鑑定、ハーブ料理教室、つるかご作り、リース作り、キノコ栽培体験
季節事業	注1	149	ブルーベリー摘み取りジャム作り体験
計	12	388	

注1: 7～8月に開催

(6)技能者養成研修(8名が受講し、8名を林業技能作業士(グリーンワーカー)として認定。)

種類	研修教科	研修場所	日数	受講人数	摘要
林業一般	林業一般・樹木学・ 県内林業施設見学・県外視察・ 救急処置	森林総合研究所	6	47	開講式・閉講式・講義
森林施業	森林調査・測量	森林総合研究所	2	16	講義及び実習
間伐	間伐の意義と方法(測量・選木・ 伐採他)	森林総合研究所	4	31	講義及び実習
林業機械	林業架線作業主任者免許規程に より定められている教科及び実技 架線Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	森林総合研究所	15	90	講義及び実習
	高性能林業機械運転練習	森林総合研究所	10	79	講義及び実習
林業器具	刈払機作業、安全衛生教育 チェンソー・刈り払い機整備	森林総合研究所	1	8	講義及び実技
はい作業	はい作業技能講習(はい作業に 関する知識)(関係法令)	森林総合研究所	2	16	講義
	玉掛技能講習	(社)ボイラー・クレーン安全協会 甲信事務所	3	21	講義及び実技
	小型移動式クレーン運転技能講習	(社)ボイラー・クレーン安全協会 甲信事務所	4	29	講義及び実技
	フォークリフト運転技能講習	陸上貨物運送事業労働災害防止 協会山梨県支部	5	35	講義及び実技
作業道	小型車両系建設機械特別運転教育	森林総合研究所	2	10	講義及び実技
	地山掘削	建設業労働災害防止協会山梨県 支部	3	24	講義及び実技
	作業道作設	森林総合研究所	10	80	講義及び実技
	車両系建設機械運転技能講習	建設業労働災害防止協会山梨県 支部	2	12	講義及び実技
計			69	498	

(7) 部内研修

名 称	対 象	内 容	受講者数
「松くい虫被害のメカニズムとその対策について」	森林環境部職員等	「松くい虫被害のメカニズムとその対策について」	38人
「ウッドマイルージによる地域材利用の推進」京都府の取り組みに学ぶ	森林環境部職員等	「ウッドマイルージによる地域材利用の推進」京都府の取り組みに学ぶ	56人
架線系機械集材技術の基礎	森林環境部職員等	架線系機械集材技術の基礎	4人
保安林実務研修	森林環境部職員等	保安林実務研修	14人
「森林と生物多様性の変化は、私達にとってどんな意味を持っているのか？」	森林環境部職員等	「森林と生物多様性の変化は、私達にとってどんな意味を持っているのか？」	83人
林業における労働安全対策	森林環境部職員等	林業における労働安全対策	40人
高性能林業機械による利用間伐	森林環境部職員等	高性能林業機械による利用間伐	5人
「森林組合監査の基本的ポイント」	森林環境部職員等	「森林組合監査の基本的ポイント」	53人
「躍進するヨーロッパ林業と政策－山梨の林業に明日はあるのか？」	森林環境部職員等	「躍進するヨーロッパ林業と政策－山梨の林業に明日はあるのか？」	44人
「メイド in 山梨 地域でエネルギー作ってみました」	森林環境部職員等	「メイド in 山梨 地域でエネルギー作ってみました」	99人
提案型集約化施業及び森林施業プランナー育成研修	森林環境部職員等	提案型集約化施業及び森林施業プランナー育成研修	28人
「GPS-GISの活用」研修	森林環境部職員等	「GPS-GISの活用」研修	5人
「造林、森林保護における研究成果及び被害対策について」	森林環境部職員等	「造林、森林保護における研究成果及び被害対策について」	21人
刈り払い機の取り扱い方法	森林環境部職員等	刈り払い機の取り扱い方法	9人
森林計画研修	担当者	・森林計画に関する基礎知識 ・森林計画各論	2人
治山（初級）i 研修	担当者	・治山事業の考え方 ・治山事業の実務	1人
治山（初級）ii 研修	担当者	・治山事業の考え方 ・治山事業の実務	1人
治山（中堅）I [治山] 研修	担当者	・治山事業を取り巻く新たな動き ・治山事業における森林整備の推進	1人
治山（中堅）II [地すべり] 研修	担当者	・治山事業を取り巻く新たな動き ・治山技術向上のための専門的個別技術	1人
治山技術現地 [地すべり] 研修	担当者	・地すべりについての現地実習 ・調査、計画、設計等の実務の習得	1人
保安林管理研修	担当者	・保安林制度について ・保安林管理の実務	1人
保安林解除及び林地開発許可	担当者	・林地の開発を巡る情勢 ・保安林解除、林地開発許可制度の実態と問題点	1人
林道（初級）I 研修	担当者	・林道整備の進め方 ・基礎知識・技術の習得	1人
林道（初級）II 研修	担当者	・林道整備の進め方 ・基礎知識・技術の習得	1人

名 称	対 象	内 容	受講者数
特用林産研修	担当者	・特用林産振興を巡る課題と推進の方向 ・特用林産物に関する知識	1人
森林情報Ⅱ（森林GIS）研修	担当者	・森林GISの現状と課題 ・森林GISの整備と活用	2人
林業普及指導員専門Ⅰ〔林業経営〕研修	担当者	・普及事業の現状と課題 ・高度かつ先進的な森林経営技術及び知識の習得	2人
林業普及指導員専門Ⅲ〔林産〕研修	担当者	・普及事業及び木材産業の現状と課題 ・高度かつ先進的な森林経営技術及び知識の習得	1人
森林環境教育研修	担当者	・森林環境教育の基礎知識 ・森林環境教育の課題と企画	2人
森林組合指導研修	担当者	・森林組合を取り巻く状況と課題 ・施業集約化と提案型施業の推進	2人
林業金融実務・税制研修	担当者	・林業金融制度の意義と実際 ・林業税制の意義と実際	1人
提案型集約化施業推進研修	担当者	・提案型集約化施業の意義と普及推進方策 ・地域森林管理のビジョンと目標林型	2人
木材利用推進研修	担当者	・木材利用の現状 ・木材利用の推進と課題	1人
木質バイオマス利用促進研修	担当者	・木質バイオマスの最新利用技術 ・先進地の事例紹介	1人
林業機械〔高性能林業機械〕研修	担当者	・関係法令 ・高性能林業機械に関する知識 ・指導普及に関する知識	1人
低コスト作業路企画者養成Ⅱ研修	担当者	・作業路の基礎知識 ・作業路作設、施工方法の基礎	1人
低コスト作業路技術者養成Ⅱ研修	担当者	・作業路の基礎知識低コスト作業路事例紹介 ・作業路作設実習	1人
低コスト作業路技術者養成再研修	担当者	・作業路の基礎知識 ・路線計画・調査・設計	1人